目次

02 建築と日常　偶然足を踏み入れた小学校で懐かしい思い出に浸るの巻　（2009 年）

03 2011-2012 年の都市・建築・言葉　アンケート　（2011 年）

04 言っていることとやっていることの一致　長谷川豪講演会「スタディとリアル」レポート　（2012 年）

06 《代田の町家》の危機　（2013 年）

07 熟成する空間　（2013 年）

07 プロとアマの間　（2013 年）

08 書評：多木浩二著『映像の歴史哲学』（2013 年）

09 建築を評価することの困難　SD レビュー 2014 展評　（2014 年）

10 書評：柴崎友香著『パノララ』（2015 年）

10 映画評：石山友美監督『だれも知らない建築のはなし』（2015 年）

11 「そうだったのか建築用語」キーワード解説　（2015 年）

12 建築と文化をめぐる短い考察　映画評：ヴィム・ヴェンダース製作総指揮『もしも建物が話せたら』（2016 年）

13 思い出すことは何か　香山壽夫著『建築のポートレート』編集者あとがき　（2017 年）

14 谷口吉郎の教養と常識　書評：谷口吉郎著『雪あかり日記／せせらぎ日記』（2018 年）

18 『建築と日常』編集者日記　よりぬき 2009 年 8 月～ 2018 年 10 月

表紙写真：東武ワールドスクウェア
栃木県日光市鬼怒川温泉大原209-1
TEL 0288-77-1055（予約センター）
http://www.tobuws.co.jp/
2018年9月28日撮影

裏表紙写真：東京駅丸の内駅舎
2017年9月9日撮影

はしがき

この号外では『建築と日常』創刊の 2009 年以降、僕が本誌以外のところで書いてきた文章をまとめている。その意味で、創刊以来の写真をまとめた去年の号外『建築と日常の写真』と対をなすようなものだ。前半はさまざまな媒体に寄稿ないし投稿した文章のうち 14 編を収録し、後半は 9 年あまり続けているブログ「『建築と日常』編集者日記」（http://d.hatena.ne.jp/richeamateur/）の記事 2000 件超から 200 日分、およそ 15 万字をよりぬいて掲載した。ブログに関しては、自分にとって意味のある文でも長くややこしかったり、画像や動画や引用文、あるいは外部のリンク先に依存する度合いが高かったりした場合は、あまりこだわらずに削っていった。だから決して全体をバランスよくまとめているわけではないのだが、インターネット上で 9 年分すべてを通覧するよりは、まだしも文の有り様は捉えやすくなっているのではないかと思う。このブログは、日々書き続けることで本誌やその他の仕事に対する思考の重要な土壌として機能することになっただけでなく、僕にとって『建築と日常』以前に無意識的に規定されていた建築専門誌の文体を、より個人的・日常的なほうに解きほぐす役割もはたしたと思う。

小学校高学年の頃、担任の先生に「長島は作文は今いちだな」と言われたことがある。そこには「他の科目はそこそこできるのに」という含意があったはずだし、そう言われてショックを受けたつもりもないのだけれど、どういうわけかその言葉が記憶に残っている。実際、作文にはずっと苦手意識があった。なぜ苦手だったのか、あくまで現時点で振り返ってみると、少なくとも大学の何年生かまで、自分のなかで文章に書いて外に出すべきものなど何もなかったというのが決定的な理由に思われる。作文には算数のような客観的な確かさもない。こどもの頃の僕はその投げだされた感じに、どうしてよいのか分からず戸惑っていた気がする（かと言ってもし義務教育でたびたび作文を課された経験がなければ、後年自発的に文章を書いてみることもなかったかもしれない）。それが今やずうずうしくも自分の文集を自分で出版するというのだから、人間先のことは分からない。

しかしいずれにせよ、文章を書くとき、その行為に自分なりの必然性が感じられるかどうかは、僕にとって放棄することができない尺度であり続けている。これは必ずしもプロの書き手とは言い切れない僕の中途半端な立ち位置とも関係することかもしれない。たとえ凡庸に見えても、自分の実感の範囲を出るようなことはなるべく書きたくない。と同時に、多少理屈っぽくなったとしても、客観的かつ正確な文を書きたいと思う。おそらくそういう意識が僕の書く文章を基礎づけている。

『建築と日常』号外
建築と日常の文章
［発行日］2018年11月25日
［文章・写真・編集・発行］長島明夫｜richeamateur@gmail.com
［印刷・製本］株式会社グラフィック
［雑誌ロゴ］大橋 修（thumb M）
［ホームページ］http://kentikutonitijou.web.fc2.com/
Printed in Japan　ISBN978-4-9906610-5-2